

私の妻がニコニコしていた理由

私には、「知的障害」を抱えた長女がいます。

彼女は、普通の子どもよりも筋力が足りないため、速く走ることができません。

運動会の徒競争に出ると、1位はおろか、2位になることも、3位になることもありません。いつも、「ビリ」でした。

忘れもしません。彼女が小学校6年生のときです。

運動会の前に、足を捻挫してしまった友だちがいました。長女は、その友達と一緒に走るようになっていたため、友だちには悪いのですが……、「はじめてビリじゃないかもしれない」と、妻は期待していたようです。

運動会を終え、妻はいつも以上にニコニコしながら帰ってきました。長女がビリから抜け出したのかと思いきや、「今回も、やはりビリだった」というのです。

ところが妻は、今回もビリだったことを嘆くどころか、ニコニコと嬉しそうにしていました。

徒競争が始まると、長女は、足を捻挫した友だちのことを何度も振り返り、気かけながら走っていたそうです。自分がゴールすることよりも、自分がビリから抜け出すことよりも、ケガをした友だちのことが心配だったのでしょ。

友だちは足をかばうあまり、転んでしまいました。すると長女は走るのをやめ、友だちのもとに駆け寄り、手を引き、起き上がらせ、2人で一緒に走りだしたそうです。

2人の姿を見て、生徒も、父兄も、2人に大きな声援を送りました。

そしていよいよゴールのとき、友だちの肩をポンと押して、自分より先に友だちをゴールさせたというのです。

この話を聞いた時、私は気がつきました。人生の目的は、競い合ったり、比べたり、争ったりするものでも、努力したり頑張ったりして「1位になる」ためにあるのではない。人生の目的は、「喜ばれる存在になることである」。私はこのことを長女に教わりました。

そして娘は、そのことを教えてくれるために、私たち夫婦の子どもになったのだと、妻の話聞き終え、私は気がついたのです。

これを見たとき、いっさい考えがわかりました。...